

古墳時代の「紀の川の巨木」の保存展示の経緯

趣旨 平成 23 年9月に紀の川で発見された巨木は古墳時代に生育していたことが判明。この自然が育んだ歴史的モニュメントを多くの県民に体感してもらえよう、同時代に築造された特別史跡『岩橋千塚古墳群』とともに「和歌山県立紀伊風土記の丘」にて保存・展示することとなりました。

巨木の概要

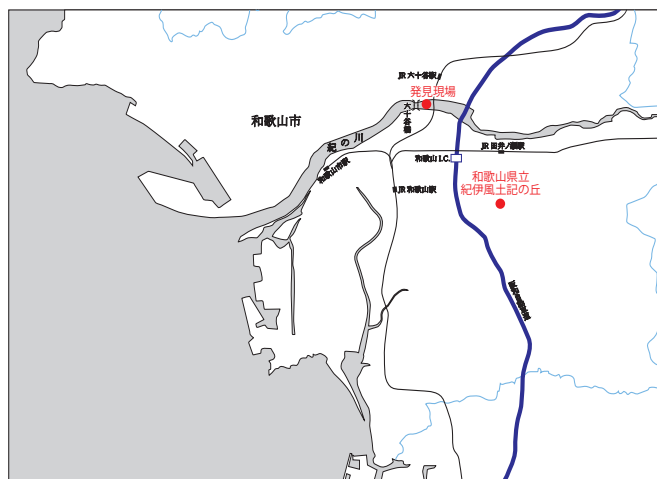


高さ 7.0m
幹直径 3.9m
幹周り 12.0m

※幹の中は空洞状態（空洞直径約 1.6m）で、幹の厚さは 1m 前後と推定
木の種類 クスノキ
樹齢（推定） 350 年（和歌山県林業試験所調べ）
※成長錐でコアを採取し年輪を確認し、これを基に推定
生育年代 西暦約 350 年から約 700 年頃まで
※放射性炭素年代測定（株）地球研究所〔名古屋市〕調べ）

発見 平成 23 年 9 月

台風 12 号の増水後、六十谷橋付近の紀の川で突き出た巨木の一部を河川管理を行っている国土交通省が確認する。



発見現場

引き上げ 平成 24 年 7 月

7月に 25t クレーンで引き上げようとしたが失敗
8月に 70t クレーンでするも失敗
結局、70t と 50t クレーン2基で六十谷橋付近の河川敷に引き上げる。
引き上げ当時の大きさは、重さ 40t、高さ 7m、幹周り 12m、根の部分 9m 四方



移設決定 平成 25 年 2 月

和歌山県が県立紀伊風土記の丘へ移設を決定する

移設 平成 25 年 4 月

巨木の運搬及びコーティングについて木徳林業（有田市）と委託契約を行う。
運搬前日までに河川敷にて、洗浄と張り出した枝や根の部分を落とし、大きく3等分する。
運搬当日は、大型トレーラー3台で早朝より紀伊風土記の丘資料館前の敷地に仮置きする。



防腐剤塗布 平成 25 年 6 月

建屋建設設計 平成 25 年 6 月

建屋建設 平成 25 年 11 月

紀伊風土記の丘資料館前西側に建屋建設工事開始

組み立て 平成 26 年 1 月 9 日

建屋の屋根の取り付けの前に、三等分した巨木を建屋の土間上に組み立てる。



建屋完成 平成 26 年 2 月 26 日

防腐剤塗布 平成 26 年 2 月 28 日

報告会 平成 26 年 3 月 15 日

展示公開 平成 26 年 3 月 16 日

展示除幕式及び一般公開開始

